

1月留学報告書

岩手大学 4年 千葉夕里奈

今月をもって最後の留学報告書となってしまいました。今回は①最近のカナダでの生活②ビクトリアツアー③5か月間の留学を通してについて書かせていただきたいと思いません。

①最近のカナダでの生活

今月は1月ということでカナダのお正月を体験することができました。しかし、お正月はやはり日本の文化のようで日本ほど大きな年間行事としての認識はないようでした。1月1日、2日は仕事はありませんでしたが、12月31日は変わらずいつも通り仕事がありました。クライアント先である語学学校も授業がある学校がほとんどでした。日本人としては31日にいつも通り仕事があるということは少しショックでした。また、お正月といえば年越しそばやおせち、鏡餅などその時期ならではの料理がありますが、カナダでは特にお正月の特別な料理というものはないようでした。

バンクーバーは「レインクーバー」と言われるほど雨が多い町で、雪が少し積もるほど降るのは年に3回くらいだそうです。その一回が1月中にあったのですが、積もるくらい降るのは年に3回というだけあって、その日は町が大混乱していました。普段使われる交通網の一つであるスカイトレインは運航されなくなり、運転再開見込みはない状態でした。そんな状態でも駅には人が溢れかえり、いかにも「大混乱」という感じでした。私も通勤するのにいつもスカイトレインを使っていたのでとても困りました。しかし調べてみるといつもより通勤に時間はかかるもののバスでもオフィスにたどり着けるようだったのでバスでオフィスに向かうことにしました。いつもより30分早く家を出ていたということもあり、オフィスには30分遅刻で着くことが出来ました。着いてみるとまだオフィスにたどり着けていない方は沢山いました。そのような状態はもちろん私たちの会社だけでなくクライアント先である語学学校も一緒に、全ての学校が休校または短縮になっていました。そのような中ではセールスである私たちに仕事はないに等しく、結局午前11時半には退勤となりました。この時の積雪量は岩手生まれ岩手育ちの私から見たら冬であれば当たり前の量でしたが、年に3回しか雪が積もらないバンクーバーにとって混乱するには十分な積雪量だったようです。

②ビクトリアツアー

私がインターンシップをさせていただいている会社のツアーの同行はビクトリアツアーが最後でした。ビクトリアツアーは毎週土曜日に行われているツアーで、この会社が企画する1dayツアー唯一の\$100を超えるものなのですが、毎週売り切れになるほど人気のツアーです。流れとしてはまず、バスで45分程走り、その後フェリーに乗ります。フ

フェリーには1時間半ほど乗っていますが、これが1 day ツアーなのに\$100を超える理由となります。しかし、フェリーは交通手段というよりは一つのアトラクション感覚で楽しむことができるのでとても良い経験となりました。季節やタイミングによってはフェリーの中からクジラを見ることもできるそうです。そしてまたバスに乗り換え、45分程走ってビクトリアのダウンタウンへ行きます。途中で休憩の意味も込めて Beacon Hill Park and Mile 0 に留まって一休みするのもお客さんにより快適にツアーを楽しんでもらう工夫となっています。ダウンタウン到着後、簡単にダウンタウンについて説明するバスツアーを15分程行った後、5時間のフリータイムとなります。通常はダウンタウンからバスで30分程にあるブチャットガーデン（東京ドーム約5個分の広大な敷地に700種類以上、100万株以上の植物が植えられている庭園）を訪れることが人気のフリータイムの過ごし方となっていますが、この時期は咲いている花が少ないのでロイヤルブリティッシュコロンビアミュージアム（ブリティッシュコロンビア州の自然と歴史についての博物館）を訪れる人が多くいました。私は博物館にもいかず、ひたすらビクトリアの街並みを楽しみました。ビクトリアのダウンタウンはあまり大きくはないので、時間が余ってしまうかもしれないと思いましたが、実際はそのようなこともなく、ゆっくりと観光ができてちょうど良かったです。フリータイム中、ダウンタウンから徒歩25分ほどにあるフィッシャーマンズ・ワーフ・パーク（第二次世界大戦後から1990年頃まで漁船場として栄えた場所で、奇抜な色合いの家々から今では観光名所として栄えています）を訪れました。小さなエリアでしたが、とても静かでダウンタウンとはまた違った雰囲気があり、現実離れた風景がとてもかわいらしかったです。私としては、ビクトリアを訪れるなら絶対に行ってほしいと思う場所です。それぞれに自由時間を楽しんだ後はバス、フェリー、バスと乗り継いでバンクーバーへ帰りました。個人的にはビクトリアツアーが全体的にゆったりしていて、街並みもバンクーバーと少し違い、一番好きなツアーでした。



ビクトリアの議会



フィッシャーマンズ・ワーフ・パーク

③ 5 か月間の留学を通して

ついに、5 か月間にわたる留学が終わりを迎えました。私の留学は1 か月語学留学+ 4

か月旅行会社でインターンシップという形でしたが、毎日様々なことが起こり、悩んだり、周り助け合ったりと、同じ日は一日としてありませんでした。私のインターンシップ先の会社はインターン生を沢山受けいれているということもあり、インターンシップをする中で沢山の出会いと別れがありました。みんな出身国も性格も異なりましたが、フレンドリーで、困っているといつも助けてくれる素敵な人たちばかりでした。上司の方々もインターン生一人一人のことをしっかりと見てくれていて、大きな失敗よりも小さな成功に目を向けてくれる、ポジティブで周りを明るく温かくしてくれる人たちでした。インターンシップでは主に営業職を、たまにマーケティングやガイドアシスタントの手伝いもさせてもらいました。インターンシップ前は、観光客を増やすにはどんなツアーがいいのか、どんなPRの仕方がいいのかということを考えていましたが、今回営業職を体験することで、それ以外の面からも観光客の増加について考えることができました。特に、ツアーを売る上で一番印象に残っている上司の言葉は「自分が商品になりなさい」という言葉でした。お客さんにツアーを売る中で、他の誰でもなく、この人がツアーを売っているから買いたい、この人が進めているのだから間違いないと思ってもらえるような人間になりなさいと言われていました。ツアーを売るというのは、どれだけそのツアーの良さを知ってもらおうかということにばかり気を取られていて、ツアーを売る人自体に重点を置くという発想は一切ありませんでした。しかし、それを頭に入れてツアーを売るようになってから、より多くの人々がツアーや私たちの会社に興味をもって話に耳を傾けてくれるようになった気がします。それから、人に優しく、笑顔で、フレンドリーに話しかけることの大切さを実感しました。このことはどんな場面でも人と話すときには必要なことだと思います。この会社を見て思ったことは、温かい人の周りには温かい人が集まるということです。みんな上司や先輩を見ながら仕事をしていくのでその温かさは上司の元で働く人たちにも広がっていきます。また、それはカナダ自体が温かい人であふれていることにも関係するのかもしれません。カナダの人たちは本当に温かく、フレンドリーで、たまたま乗り合わせた電車やバス、エレベーターなどで初めて会った人でもお話をすることが沢山ありました。そのようなカナダ本来の温かさが、世界的に人気な観光地である理由の一つになっているのかもしれない。



インターンシップ最終日の写真
セールスの上司、先輩、同僚と
ちなみに左下の男性がマネージャーです。



指導主事と同僚がくれた風船と



インターン生が Farewell party をしてくれました

5か月の留学を経て学んだことはここに書ききれないほど沢山ありました。初めて経験することもあり、戸惑うこともありましたが、周りの人々に助けられながら無事留学を終えることができました。留学前も留学中も沢山のの人に支えられ、周りに恵まれていることを実感しました。トビタテを活用することによって、「表情豊かな自然で伝えるいわて観光の魅力」という私だけの留学が実現しました。この5か月間は間違いなく今までの中で一番充実した有意義な5か月間で、この先の私の人生の大きな道しるべになることと思います。この留学に少しでも携わっていただいた方には本当に感謝しています。

最後にここまで読んで下さり、ありがとうございました。